

## 中華民国（台湾）台中日本人学校に勤務して

前 台中日本人学校（派遣期間 2009～2011年度）  
現 苫小牧市立明倫中学校 教諭 横田慎也

### I 台湾について

#### 1 地理

台湾は、台湾本土とその周辺諸島（澎湖諸島・蘭嶼など）、及び金馬地区と東沙諸島・南沙諸島から構成されており、面積は約 3 万 5980km<sup>2</sup> と九州程度（日本の約 10 分の 1）の大きさである。

台湾北東部は日本の琉球諸島の西方海上に位置しており、最も近い与那国島との距離は 110km 以下である。また、台湾地域西端の金馬地区は台湾海峡を隔てて中国と接しており、最南端の岬である鵝鑾鼻（がらんび）は、バシー海峡を隔ててフィリピンと接している。

台湾最大の島である台湾島は、南北の最長距離が約 394km、東西の最長距離が約 144km で木の葉のような形をしている。島の西部は平野、中央と東部は山地に大別されるが、島をほぼ南北に縦走する 5 つの山脈（中央山脈、玉山山脈、雪山山脈、阿里山山脈、海岸山脈）が島の総面積の半分近くを占めており、耕作可能地は島の約 30% にすぎない。台湾最高峰の山は玉山山脈の玉山（旧日本名：新高山、海拔 3,952m）であり、富士山よりも高く、同様に雪山など標高 3,000m を超える高山が多数連なっている。また、このほかの重要な地勢としては丘陵、台地、高台、盆地などが挙げられる。

なお、台湾はフィリピン海プレートとユーラシアプレートの交差部に位置するため、日本と同様に地震活動が活発な地域である。また日本と同じ火山帯に属し、温泉も豊富にある。



#### 2 気候

台湾はほぼ中央部を北回帰線が通っており、北部が亜熱帯、南部が熱帯に属している。そのため、北部は夏季を除けば比較的気温が低いのに対し、南部は冬季を除けば気温が 30 度（摂氏）を超えることが多くなっている。台湾の夏はおおよそ 5 月から 9 月までで、通常は蒸し暑く、日中の気温は 27 度から 35 度まで上り、7 月の平均気温は 28 度である。冬は 12 月から 2 月までと期間が短く、気温は総じて温暖であり、1 月の平均気温は 14 度である。ただし、山岳部の高標高地帯では積雪が観測されることもある。

平均降雨量は年間およそ 2515mm であるが、降雨量は季節、位置、標高によって大きく異なっている。台湾は台風の襲来が多く、毎年平均 3～4 個の台風襲来している。台湾は台風で給水の大きな部分を賄っているが、同時に損壊、洪水、土砂流などの災害も発生している。1996 年の台風 9 号や 2009 年の台風 8 号などは、豪雨をもたらした。また、台風以外にも、夏季には台湾語「サイパッホー（sai-bak-ho）」（普通は西北雨と表記、正しいのは夕暴雨）と呼ばれる猛烈な夕立が多い。

	平均気温 (°C)	降雨日数	年降雨量 (mm)		平均気温 (°C)	降雨日数	年降雨量 (mm)
基隆	22.4	206	3,755	札幌	8.5	265	1,127
台北	22.6	170	2,325	東京	15.9	189	1,466
台中	23.0	117	1,542	名古屋	15.4	191	1,564
花蓮	23.3	165	2,157	大阪	16.5	199	1,306
高雄	24.7	92	1,785	福岡	16.6	212	1,632

### 3 日本との経済関係

台湾は旧日本領であり歴史的に関係が深く、地理的に近く自由主義陣営の国家であり、貿易を始めとした経済的交流が強い。

民間貿易以外に台北国際金融センタービル（臺北 101）や台湾高速鉄道（台湾新幹線）の建設など、台湾の主要公共事業も日本企業によるものがあり、台湾経済における日本への依存は大きいものがある。また日本企業による台湾進出以外にも、古くは衣料業関連、現在では電子工業関連を中心に日本進出を果たす台湾企業もある。



台北国際金融センタービル（臺北 101）



台湾高速鉄道（台湾新幹線）

### 4 台湾に本拠地を置く代表的な大企業

- ・ 鴻海精密工業（Foxconn） 台湾最大の民間企業のひとつ。
- ・ ASUS（華碩） パソコンメーカー。
- ・ Acer（宏碁） ゲートウェイなどの傘下を持つ、パソコンメーカー。
- ・ BenQ（明基・ベンキュー） 2001年、エイサーグループから独立した。
- ・ Realtek（リアルテック） コンピューター用半導体メーカー。カニのマークでお馴染み。
- ・ HTC（宏達国際電子） スマートフォン、PDA製造メーカー。
- ・ D-Link（友訊） ルーターなどインターネット関連製品における企業。
- ・ トレンドマイクロ（趨勢科技） ウイルスバスターなどを開発するパソコンソフトメーカー。
- ・ CyberLink（zh:訊連科技） PowerDVDなどを開発するパソコンソフトメーカー。
- ・ GIANT（捷安特・ジャイアント） 自転車メーカー。
- ・ キムコ（光陽機車・KYMCO） スクーターメーカー。
- ・ 三陽工業（San Yang Industry） SYMブランドのスクーターメーカー。
- ・ 裕隆汽車 自動車メーカー。
- ・ MAXXIS Tire（正新橡膠） タイヤメーカー
- ・ エバー航空（長栄航空）
- ・ チャイナエアライン（中華航空）



GIANT 製自転車

## II 台中日本人学校について

## 1 概要

台中日本人学校校舎は、市内から北西へ12kmほど離れた丘陵地に位置しており、周囲を田畑に囲まれ静かで穏やかな土地で、校舎からは台中市や大雅郷を一望できます。近くに空軍基地があり、軍機が学校の上を横切る光景は頻繁に見られますが、市内の喧騒からも離れた、教育を行う上においては絶好の環境といえます。児童・生徒数は、小・中学部合わせて189名（平成24年4月11日現在）、各学年単学級の小規模な学校ですが、教職員を含めて家族的な雰囲気の、和気あいあいとした学校です。

1976年	台中日本語補習学校として開校する。
1977年1月	台北日本人学校台中分校として、日本政府より認可される。
1977年4月	台中市日僑学校として認可される。
1980年4月	台中日本人学校として独立する。
1981年12月	台中縣太平郷に移転し台中縣日僑学校に校名を変更する。
1997年	20周年式典を行う。
1999年9月	台湾大地震により校舎が倒壊する。
1999年10月	台中市エンジェル幼稚園を仮校舎として借用、移転する。
2000年3月	台中縣大雅郷に仮校舎を建設、移転する。
2001年2月	新校舎に移転する。
2001年5月	新校舎の再建記念式典を行う。
2007年10月	創立30周年式典を行う。
2010年11月	校舎再建10周年記念式典を行う。

## 3 本校教育の目的

台中市並びにその周辺に居住している日本国籍を有している子どもに、日本国憲法、教育基本法及び学校教育法に示されている教育の目的・方針に従い、生きる力を育むとともに、国際性を醸成し、心豊かで心身ともに健全なこどもの育成を図ることを目的とする。

## 4 学校教育目標

生きる力と国際性を身につけた、心身ともに健全な子どもの育成

## 5 学校経営の基本方針（2011年度）

国内とは異なる教育環境におかれた子どもに対し、国内同様、教育の機会均等及び義務教育の精神に沿って、日本国民にふさわしい教育を行うとともに、併せて国際性を培うことを目的とする。教育公務員としての自覚と誇りを持ち、在外にある学校の特色を生かして、児童・生徒の夢を育み教師がともに育つ学校の実現を期す。

- (1) 良き伝統を継承し、明るく活気のある校風を確立する。
- (2) 異文化における違いを理解し、認め、尊重する態度を育み、国際性の醸成をめざす。
- (3) 確かな学力と豊かな心を育むため、調和のとれた教育課程を編制しPDSCAのサイクルで教育効果のみえる経営を行う。
- (4) 児童・生徒及び職員の安全・安心の確保と心身の健康保持のため、危機管理に備えた体制づくりをするとともに、常に安全管理意識を高める。
- (5) 研究・研修に努め、創意・工夫をこらした教育実践をとおして、専門職としての力量と資質の向上をめざす。
- (6) 日本人並びに教育公務員（文科省派遣）としての誇りと使命感をもって教育活動を推進する。

## 6 本年度運営の基本(2011年度)

### 教育課程の編成

本校教育目標の具現化をめざし、児童・生徒の知・徳・体の調和のとれた心身ともに健全な育成を

促すとともに、在外に設置された本校の特色を生かしつつ生きる力と国際性を育成することをねらいとして編成する。

(1) 教育課程編成の基本方針

- ア 日本の法令及び学習指導要領に従う。
- イ 在外にある日本人学校の特殊性を考慮し、地域や学校の実態に適した編成を行う。
- ウ 児童・生徒の心身の発達段階に応じ、個々のもつ能力を発揮できるよう工夫する。

(2) 指導内容

- ア 各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動を学習指導要領に示されたところから従って行う。
- イ 学習指導計画を作成し、実践する。実践後、改善点等を付加修正する。

(3) 配当授業日数

ア 年間授業日数

- ・本年度の授業日数は、年間、小学部1年生と中学部1年生は204日、小学部6年生は200日、中学部3年生は194日、他205日とする。
- ・本年度実質授業時数は、文部科学省提示標準時数を超えるように実践する。

イ 週授業時数

- ・学校教育法施行規則及び新学習指導要領、在外の日本人学校の特殊性を考慮し、週授業時数は別表（2011年度授業時数）のとおりとして調整する。
- ・小学部2年生については、生活科の中の週1時間を中国語・日本語に、小学部3年生～6年生の総合的な学習の時間（70時間）のうち、週1時間を現地理解教育の一環として、中国語・日本語に配当する。

ウ 小学部5年生～中学部を対象に、週に1時間、補充・学力向上のための自主学習の時間を設定する。但し、必要に応じて、個別指導を行うこともできるようにする。

エ 児童・生徒の委員会活動は、原則として月1回行う。

(4) 日課表

小学部は1単位時間45分、中学部は50分とする。また、以下を考慮に日課表を設定する。

ア 毎日、朝の会、帰りの会を実施し、連絡事項、安全指導、学校生活に関する指導の徹底を図る。

イ 毎朝、8時10分から15分間、国語、算数、数学を中心とした、基礎・基本のプリントによる朝学習を行う。

ウ 小学部5年生以上は、毎週火曜日と金曜日の7校時に部活動を行う。木曜日の7校時を補充指導や進路指導に充て、学力向上を図る。4年生は、7校時の授業を行う。

エ 小学部は、2校時終了後、15分の中休みをとり、3時間目開始は10時35分とする。

オ 昼休みの後、15分間の一斉清掃を行う。

(5) 放課後の打ち合わせ

ア 放課後の打ち合わせは、月曜日、水曜日、金曜日の3回行い、児童・生徒の情報交換を行う。次週の予定確認は、金曜日に行う。

### **教科担任制の実施**

(1) 小学部1年生から4年生までは、学級担任による教科指導を基本としながら、必要に応じて専科による教科指導を行う。小学部5年生以上は、可能な限り教科担任制とする。

(2) 担任と副担任は常に連携し学級運営にあたる。

- ・小学部低・中・高にそれぞれ1名、中学部1年、2、3年にそれぞれ1名の副担任をおく。
- ・副担任は、朝・帰りの会、昼食時間は所属のクラスに入り、必要に応じて指導する。
- ・個人懇談会等、子どもにかかる指導については、可能な限り担任と副担任が連携して指導にあたる。
  
- ・指導要録、出席簿、通知表等の作成は協力して行う。

## **学習指導**

- (1) 小学部学力診断テスト及び中学部実力テストを実施し、個々の児童の学力を把握し、個に応じた指導を工夫する。
- (2) 一人ひとりの子どもに基礎的・基本的な事項の確実な定着を図る授業を推進するとともに、自ら考え、判断し、課題解決を図る授業を構築する。
- (3) 国語力の向上を図るとともに、どの教科においても、自分の考えを自分の言葉で伝え合う交流のある学習指導を行う。
- (4) 国語、算数、数学の取り組み（漢字・計算の徹底指導とコンテスト）を推進する。
- (5) 新学習指導要領の趣旨に沿って、指導内容の改善を行う。
  - ・言語の力をはぐくむ
  - ・理科、算数、数学の力をはぐくむ
  - ・伝統や文化に関する教育の充実を図る
  - ・健康でたくましい体作りをめざして、体育の時間を充実させる。
- (6) 中国語並びに日本語の力をつけるため、子どもの能力に応じた適切な指導と教材を開発する。
  - ・中国語の目標を、低・中・高の2学年ごとに明確にする。
  - ・小学部5・6年生は、グレードごとに初級・中級・上級によるクラス編成を行う。中学部は、現地の高校へ進学する生徒へ対応するために進学中国語を設定し、4クラス編成とする。
  - ・新たに編・転入した児童には、入門期指導を当分の間行う。
  - ・日本語指導は、カリキュラムに沿って指導を行い、指導の充実を図る。
- (7) 小学部5、6年生の外国語活動（英会話）を充実させ、中学部英語との連携を図る。
  - ・新たに転入した児童に対し、担当は個別に指導を行う。
- (8) 発展的な学習内容への対応
  - ・発展的な学習内容に積極的に取り組む。必要に応じて、クラスの枠を外して実施することもできる。
  - ・古文、俳句、百人一首、読書紹介、英語・中国語のスピーチや暗誦等の内容も取り上げ、学ぶ楽しさを体感する学習指導を行う。
- (9) 社会科副読本 改訂版「私達の台中」、現地理解教育資料集「ニーハオ台湾」の積極的な活用に努める。
- (10) 豊かな体験活動の充実  
各教科や道徳、特別活動、総合的な学習の時間等、教育活動全般において本校の特徴を生かした体験学習を推進し、現地理解を図るとともに、豊かな心と確かな学力を身につけさせる。「自然体験」「職場体験」「勤労体験」「ボランティア体験」「現地校体験入学」「修学旅行」等の教材開発を行う。

## **図書館教育の充実**

- (1) 国語の時間を活用して、読書指導を行う。
- (2) 学習広報委員会による読書月間の取り組みをとおして、各学級での取り組みを推進する。
- (3) 週1回、金曜日の朝読書をとおして、読書活動を充実させる。

## **心の教育の充実**

- (1) 道徳教育の時間確保並びに指導内容を充実させる。
- (2) 人権教育の推進をとおして、思いやりの心をはぐくみ、命を大切にする指導を行う。
- (3) 我慢する、耐える、失敗を恐れない、等の逞しさをはぐくむ指導を行う。

## **生活指導の充実**

カウンセリングマインドをすべての教員が身につけ、一人ひとりの子どもにとって学校が居場所となる取り組みを推進する。

- (1) 月の生活目標の周知を図り、共通指導・共通実践を行い、評価を次に生かす。

- (2) 子どもの情報交換を定例化する。(月・水・金の打ち合わせ)
- (3) 子ども相談室(教育相談室)の積極的な利用を図り、子ども相談の週間を実施する。
- (4) 礼儀正しい行動と正しい言葉遣いを指導する。
  - ・挨拶の日常化を図る
  - ・くんづけ、さんづけをする
  - ・目上の人には敬語を使う
  - ・廊下は静かに右側を歩く(移動教室)

### **特別活動の充実**

- (1) 児童会・生徒会活動において、児童・生徒の自主性を尊重し、創造的な活動に取り組みさせる。
- (2) 学校行事の推進に当たっては、意図的・計画的に行い、高学年、中学部においては、児童・生徒が創意工夫できるように指導を行う。
- (3) 学級活動において、学級活動①、学級活動②の内容をバランスよく計画し、実施する。

### **進路指導の推進**

一人ひとりの進路希望に照らし合わせ、保護者との意思疎通と連携を図り、きめ細かで適切な進路指導の取り組みを推進する。

- (1) 資料の収集、活用、整理、保管に努め、進路情報は保護者に伝えるとともに、進路説明会の充実を図る。
- (2) 中3担任は、日本国内の進学予定高校の情報収集並びに見学・訪問等を行い、進路の保障に努める。
- (3) 進路指導室の積極的な活用(児童生徒・保護者)を図る。
- (4) 職場体験学習(中学部1・2年生対象)を推進する。
- (5) キャリア教育をとおして将来への希望をはぐくみ、適切な職業観をもたせる。

### **環境教育の推進**

- (1) 各学級においても、縦割り活動等においても、ゴミ分別・リサイクルに積極的に取り組む。
- (2) 使用しない教室、特別教室などの消灯を心がけ、エアコンを適切に使用する。
- (3) 教室、オープンスペース、廊下等は常に整理・整頓する。
- (4) 児童・生徒の感性に働きかける掲示を心がける。

### **開かれた学校・信頼される学校・魅力ある学校づくり**

- (1) 地元の国民小学、国民中学及び高級中学、大学との国際交流を継続する。
- (2) 秋祭り等をとおして地域との交流を促進する。
- (3) 必要に応じて、新竹補習校等への支援を行う。
- (4) 保護者による学校評価ならびに学習参観や行事後のアンケート調査を行い、学校への理解を図るとともに、保護者の要望や願いに応える。

### **外部講師、外部人材活用とボランティア活動の推進**

幅広い人材活用を推進する視点から、英語外部講師やスペシャリスト、教員補助が必要な分野、職業体験や体験学習が要求される分野等で積極的に導入を図る。(中国語指導、英語指導、水泳指導、剣道指導、諸活動におけるゲストティーチャー)

### **総合的な学習の時間の充実**

- (1) 副読本の活用や教材開発をとおして、内容の充実を図り、系統的なカリキュラム作成
- (2) 自己の学びを追求、発展させる学習

### **本校の特色を簡単にまとめると・・・**

○中国語・日本語と英会話

全学年で中国語、小1～6年で日本語、小4以上で英会話の授業を行っています。中学部では習熟度別にクラス編成を行い、現地校新学予定者向けの進学中国語クラスも解説しています。

○小5以上は教科担任制

小4までは、学級担任による教科指導を基本としながら、必要に応じて専科による教科指導を行っています（図工など）。

○漢字・計算の徹底指導とコンテストの実施

○現地理解教育の推進

全教科を通じて現地理解教育を行っていますが、特に現地理解を深めるために「社会科見学」、現地國小・國中との「交流学习」、「体験学習」などの行っています。また、職員研修としても「現地校見学」「交歓会」「工場見学」等を行っています。

○部活動

部活動は小学部5年生以上の児童・中学部生徒の全員参加で、毎週火曜日・木曜日の放課後1時間実施しています。ソフトボール部・サッカー部・バレーボール部・バスケットボール部・卓球部の各部が活動を行っています。

○自主裁量の時間

基礎学力の向上を目的とし、週に1時間、少人数クラスで質問学習や自主学習を行い、学習方法を習得する授業を行っています。

○読書活動

週に一度、朝学習の時間を読書にあてています。また、読書月間のさまざまな取り組みなど、年間にわたって読書に親しむ習慣を身につける活動をしています。

○発展的な学習内容への対応

発展的な学習については、学級や学年の枠を外して実施できることになっています。



苺狩り（現地理解教育）



トンボ玉作成（教職員研修）

### Ⅲ 現地生活情報

#### 1 言語

台湾の公用語は、日本で「北京語」と呼ばれる言語（中国での公用語）に相当し、台湾では「國語」

とされています。「北京語」と「國語」には、一言で言えば言語運用面や発音面において“英国英語とアメリカ英語のような隔たり”があるといえます。最大の違いは「北京語」が簡体字を使用するのに対し、「國語」では繁体字を用いるという点です。また、発音の表記方法においても「北京語」が“ピンイン”と呼ばれるアルファベットを用いた表記法なのに対して、「國語」では“國語注音符號”を採用しています。しかし、一般的には、台湾語（「台語」）を使用している人も多く、台湾南部に行くほどその傾向は強いと言えます。

台湾でも日本と同様に英語の学習が盛んで、特に若い世代の人たちには英語が比較的通じやすいように感じられます。また、日本統治時代に日本語教育を受けた年輩の人々や、最近の日本ブームに伴う日本語の学習経験がある若者など、意外な場面で日本語が通じることもあります。

いろいろな場面で言葉の壁にぶつかることも多いですが、いざとなれば筆談で事欠きません。また、ひとたび外国人とわかると多くの台湾人は親切に対応してくれます。

なお、派遣教員やその家族の多くが、語学学校に通ったり、家庭教師をつけたりして中国語を勉強しています。日本語が堪能な語学教師も多くいます。

## 2 通貨

台湾には、100元、200元、500元、1,000元、2,000元の6種類の紙幣と、1元、5元、10元、20元、50元の5種類の硬貨が現在使われています（2,000元紙幣は一般には流通していません）。

通貨単位は『圓（ユエン）』—日本語の「円」の旧字—ですが、国際的には新台幣・NT\$（ニュー・タイワン・ドル）と呼ばれています。また、日常的には『塊（クワイ）』を用い「100塊（錢）」というような言い方をします。通貨単位の表現法が統一されていないので複雑に感じられますが、値段に関しては数字の部分のみ理解できれば問題ありません。

2012年8月現在、新台幣の為替レートは1元あたり約2.65円です。

## 3 生活関連価格

品目	単位	台湾元	日本円
食パン	1 kg	80元	212円
鶏肉	1 kg	160元	424円
じゃがいも	1 kg	30元	80円
パイナップル	1 kg	40元	106円
ビール	1 瓶	50元	133円
マイルドセブン	1 箱	80元	212円

※ 物価は日本の3分の1程度に感じます

自動車 (マツダプレマシー 2000CS)	1 台	735000元	1947750円
--------------------------	-----	---------	----------

※ 高級品などの一部商品は日本より割高に感じます



フルーツ屋のパイナップル



マイルドセブン

## IV お気に入り（個人的ですが、、）

### 1 5つの単語を話せば何とかなる・・・

台湾に来てすぐに現地スタッフに教わりました。台湾の人々はとても親切なので、買い物や食事に行く時等、本当にこの5つで何とかなることが多かったです。



「你好 (ni hao, ニイハオ)」  
「再見 (zai jian, ツアイチェン)」  
「謝謝 (xie xie, シエシエ)」  
「對不起 (dui bu qi, ドウエイブチイ)」  
「多少錢 (duōshao qián?, ドウオサオ チェン?)」

「こんにちは」・「こんばんは」  
「さようなら」  
「ありがとうございます」  
「ごめんなさい」  
「いくらですか？」

## 2 豊かな自然

台中市は人口約265万の都市ですが、中心部でも野鳥・リス・コウモリ・ヤモリ等、日本ではなかなか見られない動物が普通に出現します。動物好きの自分にとってはとても嬉しいことでした。



学校の敷地内に現れた蛇を捕獲



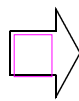
ヤモリやトカゲもよく見かけます

## 3 爆竹・花火

台湾では何か行事があるときには、爆竹や花火がつきものになっているようです。町中であっても、よく突然爆竹や花火が鳴り響きます。突然なので驚くこともありますが、楽しい気分になってきます。



新年のカウントダウンイベント  
台北 101(高さ 509 m) のビルが、、、



仕掛け花火によってこんなことに

## V 最後に

平成21年4月6日、我々家族4人は台湾に到着しました。とりあえず無事には到着したものの、前日から体調を崩していた次女が、熱でぐったりとしており、波乱の台湾生活のスタートの予感がしました。すぐに病院に連れて行ってもらって、薬を処方してもらいましたが、病院の先生は日本語が上

手で、詳しく説明してくれたので、妻はとても安心したようでした。翌日、薬が効いたと思われ、次女は早朝から元気に遊び回っていて、「台湾の薬は効くんだなー」と思いました。後で知ったのですが、台湾の薬は欧米から輸入されているため、欧米人に比べて体格の小さい日本人に対しては力価が高くなり、良く効くのだそうです。実は、海外生活で一番心配していたのが子どもの健康や病院関係のことだったので、この件でとても心強く感じたことを覚えています。

それから毎日が驚きと感動の連続でした。

交通事情ですが、交通ルールはあつてないに等しいようなもので、絶対に油断できません。至る所で頻繁に交通事故が起こっています。3年間でざっと100件くらいの事故現場を目撃したと思います（決して誇張ではありません）。

自転車レースに参加する人を応援に行ったときの事です。空軍基地でレースが行われたのですが、帰りに出口を通してもらえませんでした。許可証がないので出入りさせられないというのです。では、なぜ入れたんだという話になりますが、とにかく規則だから許可証がないと出せないというのです。本当に困ってしまいましたが、大会主催者や警察が来て説明してくれて最後は無事に出ることができました。帰り際、空軍の人達から「規則が変わって帰れることになったよ」「また来いよ」というようなことを言われて、微妙な気持ちがしましたが、、、これが台湾。もちろん、「謝謝！」「再見！」と笑顔一杯で答えました。

こんなこともありました。公園で小学1年生くらいの現地の子が話しかけてきたのです。私が中国語があまり話せないとわかると、英語で質問攻めです。「台湾に来て何年？」「日本と台湾の違いは？」「台湾のどんなところが好き？」。そして最後に「台湾は良いところだし、外国人でも暮らしやすいぜ！台湾生活を大いに楽しんでくれよ！」。後で知ったのですが、台湾は英語教育に力を入れていて、若者の英語力は相当なものです。私よりも現地の小学1年生の方が英語を巧みに操るようです。

台中日本人学校での仕事ですが、国内に比べて実に密度が濃い毎日でした。平日は、5：30に家を出て、帰宅は日付が変わる頃というのも当たり前です。しかし、不思議なことに疲労感を感じたことはほとんどありません。おそらく、学習にも行事にも子ども達が精一杯、全力で取り組んでいた（台中日本人学校の伝統です）からだと思います。仕事、掃除、当番などでサボったり手を抜いたりする子はおらず、しかも本当に全力で行います。掃除も汗だくになりながら行います。子どもからたくさんのエネルギーをもらいました。振り返ってみると、実に多くの人に支えられた3年間でした。現地スタッフには様々なことを教えてもらったり手伝ってもらったりばかりでした。日本人会や保護者には、学校の教育活動に対して全面的に協力していただきました。台湾の人々も我々を暖かく迎え入れてくれて、とても幸せでした。3年間の貴重な体験を、これから国内でしっかりと還元していきたいと思っています。



2009年8月 台湾太魯閣（タロコ）溪谷にて